

様式1〔申し合わせ事項〕 【委員会、全協：共通様式】

令和 2年10月 2 / 日

東員町議会 総務建設 常任委員会
委員長 伊藤 治雄 様

東員町議会 議員 山本 陽一郎



研修期間	令和 2 年 10 月 13 日 (火) ~ 月 日 () 【 1日間】
研修 (視察) 先	三重県桑名市 桑名橋上駅舎と東西を結ぶ自由通路他
目的 (テーマ等)	桑名駅周辺整備及び公共交通について
資料添付の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。



様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔議員氏名： 山本 陽一郎 〕

研修概要、内容、所感

総務建設常任委員会で桑名駅周辺整備及び公共交通についてを題材にして、桑名市で公共交通を使用しての視察研修に参加した。

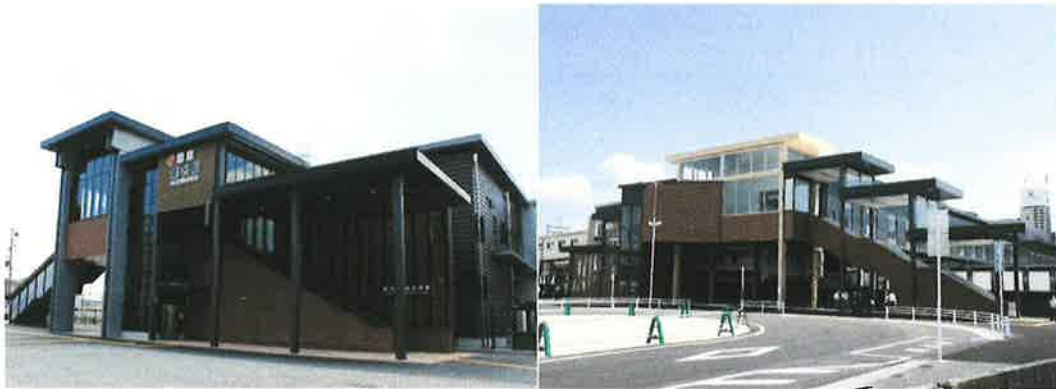
当日、町コミュニティバスを利用し、途中、中上地区で2名の住民の方の乗車があったが乗車人員は少なく北勢線穴太駅で乗車し桑名駅に向かった。

桑名駅では、桑名市 都市整備部 駅周辺整備課 中西課長と産業文化部都市整備部 駅周辺整備課 伊藤主幹の案内、説明により橋上駅舎と自由通路を視察した。

現在、桑名市は桑名駅西側に於いて「桑名駅西土地区画整理事業」が施行中であり、道路の拡幅や公園を各所に配置するなど住宅街の整備により生活環境を整え、より住みやすいまちにするための整備が進められており、桑名駅も、平成29年5月に東海旅客鉄道(株)、平成29年7月に近畿日本鉄道(株)と桑名駅自由通路等の整備に関する施行協定を締結し、平成29年度より整備を進めていた。

この自由通路は、旧桑名駅（JR 関西本線、近鉄名古屋線、養老鉄道養老線）があった位置から南へ約80mの位置に整備されたことにより、JR桑名駅、近鉄桑名駅及び養老鉄道桑名駅を自由通路に面する形で移設され、ホームへのアクセスが安易となり、利便性が向上していた。

駅舎デザインは、桑名の歴史を感じられるものとなり駅舎南側は、大きなガラス窓により、3種類の線路幅の違いを体感できる日本で唯一の踏切があり、線路幅を上からも望むことができた。



今後、桑名駅東口の広場整備を進めており、レジャー施設「ナガシマリゾート」を運営する長島観光開発株式会社が、11階建てホテルを中心に、ペDESTリアンデッキ（高架歩道）、駅前広場、観光・物産館などの建設を計画し、駅西口では、土地区画整理事業が進められていくとの事。

しかしながら三岐北勢線桑名駅へ延伸、駅構内への乗り込みが実施されなかったことは、非常に遺憾で残念であった。

午後、桑名市庁舎にて桑名市統括監兼市長公室長 加藤眞毅氏挨拶の後、市長公室政策創造課梅山靖洋 MaaS 推進室長の説明により市の MaaS 推進室についてとオンデマ

ンド交通について研修した。

多くの人が、移動をマイカーに依存する現代社会に於いては、公共交通機関の運転手不足が懸念されるなど、公共交通は存続が厳しい状態に陥っており、現実にはバス・鉄道等の集約輸送を旨とする公共交通機関は撤退が進む状況であり、マイカーを使えない、または今後使えなくなる高齢者を始めとする“移動制約者”の足が危機に瀕している。

桑名市も諸課題に対応する目的で、北勢線、養老鉄道、コミュニティバスと、まちづくり推進課において実証実験を行い、自動運転等を、一元化し、これからの本市の公共交通政策を検討するため、令和2年4月市長公室内にMaaS推進室を設置した。

国・県の補助を受け、過疎化と高齢化に対応して大山田団地内の一定の対象エリア内で、フリーハンドで適切なルートを設定する自動運転バスの実証実験を三重交通（株）と共同で行い、自動運転バスの住民への認知と、実際の公道を走行して得られるデータの取得を目的に昨年に続き実証実験を実施致した。

しかし桑名市独自の実証実験だけでは、データの取得量も限定されており、今後は東員町も含めた広域での取り組みを提案し、市の担当者もその必要性を語っていた。

さらに名古屋市への通勤、通学の大動脈とも言うべき伊勢大橋の改修工事など東員町にも大きな影響を持つ工事等の進捗も含めた情報共有はなによりも大切だと感じる。